

病理学 1 : 517-2-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP8

年次	学期	学則科目責任者
2年次	後学期	*久山 佳代 (病理学)

学修目標 (G I O) と単位数	<p>・単位数：3</p> <p>・学修目標 (G I O) : 疾病は生体の構造や機能が正常範囲から逸脱した状態で、その原因である「病因」と6つに大別される「病変」とがある。これら病因と病変・病態の理解なくしては医療・歯科医療が成り立たない。病因と病態を理解することは基礎歯科医学から臨床歯科医学への橋渡しともなる。病理学1では疾病の本態を理解するために、病因、病変の成り立ち・経過及び形態学的変化を理解し、ひいては歯科医師として必要な問題発見及び問題解決能力を見つけることを目標とする。</p>
担当教員	<p>*宇都宮 忠彦、*久山 佳代、*末光 正昌、齋藤 美雪、*田中 秀邦、*林 正人、*西山 孝宏、*中村 文彦、*中島 十四夫、*中澤 啓介、*小泉 康之、*玉城 吉夫、*小泉 歩、*黒子 光雄、*山本 浩嗣、*太田 泰人、*大石 善也、*猪又 俊之、*新崎 博文、*阿部 洋太郎、*メルニエイ マリア、*村守 樹理、*三宅 正純、*松村 由香、*田中 強、*二谷 悦子、*紫垣 華子、*諸岡 均、*坂田 一美、*鈴木 慶洋、*及川 麻理子、*鈴木 彰、*白川 誠二、*茂田 里恵、*齋藤 隆明、*山本 泰、*豊澤 悟、*木村 栄作、*立花 寿人、*長谷川 一弘、*樋口 真弘、*佐藤 由紀子、*中山 光子</p>
教科書	<p>病理・口腔病理学提要 日本大学松戸歯学部病理学講座編 日本大学松戸歯学部病理学講座 スタンダード病理学 下野正基編 学建書院</p>
参考図書	<p>病理学総論に基づく口腔病理学 井上孝、田中昭男、長谷川博雅主幹 永末書店 歯学生のための一般病理アトラス 賀来亨、山本浩嗣編 永末書店</p>
評価方法 (E V)	<p>1) 平常試験1 (25%)、後半試験 (25%) 及び平常試験2 (50%) を目安として算出し、60点以上を合格とする。ただし、実習帳の評価を加味できる。 2) 合格点に達しなかった者には再試験を実施することがある。ただし、欠席数 (正当な理由のないもの) が全体の1/5以上の者はこれによらない。 3) 不合格の評価は0~59%とする。</p>
学生へのメッセージ オフィスアワー	<p>病理学は歯科医師になるために必要な知識と技能を学ぶ学問です。そして、歯科医師として身につけておくべきマナーも重要な教育要素と考えています。真摯な努力と誠意、熱意をもって学修してください。そうすればきっと、良い歯科医師となることと信じます。人体の正常の構造や機能と関連しながら、予習と復習を行ってください。 自学自修には上記の図書以外にWebClassや配布資料等を十分に利用してください。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/09/18 (水) 1時限 09:00~10:30	病因論	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、疾病の成り立ちと病態との関連性について基礎的知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 外因を列挙できる。 3. 外因の関与する代表的疾患の病態について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 疾患の内因と外因 2) 6大病変の種類 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 病因論・6大病変についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ア 内因、外因</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 ②環境と疾患の関係を説明できる。</p>	<p>*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌</p>
2019/09/18 (水) 2時限 10:40~12:10	病因論	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、疾病の成り立ちと病態との関連性について基礎的知識を習得する。</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
	病因論	<p>【行動目標（SBOs）】 1. 疾病の原因と成り立ちとの関連性について説明できる。 2. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 3. 内因を列挙できる。 4. 内因の関与する代表的疾患の病態について述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 疾患の内因と外因 2) 6大病変の種類 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 病因論・6大病変についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ア 内因、外因</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 ②環境と疾患の関係を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌
2019/10/02 (水) 1時限 09:00～10:30	細胞障害、組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	<p>【授業の一般目標】 退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞障害、組織障害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 退行性病変の医学的意義について述べるができる。 3. 萎縮の原因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患の病態について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 退行性病変における萎縮、変性及び壊死の定義 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 萎縮、変性、壊死についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102 教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 イ 細胞組織の傷害 a 代謝障害（変性） b 萎縮 c 細胞死</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ①細胞傷害と組織傷害を説明できる。 ②変性と関連疾患の病態を説明できる。 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 ④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	田中 秀邦
2019/10/02 (水) 2時限 10:40～12:10	細胞障害、組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	<p>【授業の一般目標】 退行性病変/代謝障害を理解するために細胞障害、組織障害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学修する。</p>	田中 秀邦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/02 (水) 2時限 10:40～12:10	細胞障害、組織障害及び萎縮 (退行性病変/代謝障害)	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 変性の定義を述べることができる。 3. 変性の原因, 種類, 形態学的特徴及び代表的疾患の病態について説明できる。 4. 壊死, 壊疽, アポトーシスの成因, 意義, 多様性及び病態について解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目 1) 退行性病変における萎縮, 変性及び壊死の定義 ・事前学修時間: 30分</p> <p>事後学修項目 1) 萎縮, 変性, 壊死についてのドリル ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 i 代謝障害、萎縮、壊死</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 イ 細胞組織の傷害 a 代謝障害 (変性) b 萎縮 c 細胞死</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-2) 細胞傷害、組織傷害及び萎縮 ①細胞傷害と組織傷害を説明できる。 ②変性と関連疾患の病態を説明できる。 ③疾患における壊死とアポトーシスを説明できる。 ④萎縮と仮性肥大を説明できる。</p>	田中 秀邦
2019/10/09 (水) 1時限 09:00～10:30	退行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】</p> <p>退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞傷害、組織傷害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 退行性病変に分類される疾患や病変の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目 1) 退行性病変における萎縮, 変性及び壊死の定義 ・事前学修時間: 30分</p> <p>事後学修項目 1) 萎縮, 変性, 壊死についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p>	*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2019/10/09 (水) 2時限 10:40～12:10	退行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】</p> <p>退行性病変及び代謝障害を理解するために、細胞傷害、組織傷害及び萎縮の病因・病態と生物学的意義について学修する。</p>	*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 齋藤 美雪

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/09 (水) 2時限 10:40~12:10	退行性病変の病理組織学	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 退行性病変に分類される疾患や病変の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目 1) 退行性病変における萎縮、変性及び壊死の定義 ・事前学修時間：30分</p> <p>事後学修項目 1) 萎縮・変性・壊死についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p>	田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 齋藤 康之 茂田 隆明 白川 里恵 鈴木 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエ イ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2019/10/16 (水) 1時限 09:00~10:30	循環障害	<p>【授業の一般目標】</p> <p>循環障害を理解するために、その分類、病因及び病態について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 虚血、充血、うっ血、出血の成り立ち、種類、病態及び転帰について説明できる。 3. 側副循環の異常の成因、種類及び関連する疾患について述べる事ができる。 4. ショックの成因、分類及び病態について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目 1) 循環器の解剖 2) 循環障害の定義 ・事前学修時間：30分</p> <p>事後学修項目 1) 循環障害についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	田中 秀邦
2019/10/16 (水) 2時限 10:40~12:10	循環障害	<p>【授業の一般目標】</p> <p>循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p>	*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/16 (水) 2時限 10:40～12:10	循環障害	<p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 血栓、塞栓、梗塞の種類、成り立ち、病態及び転帰について説明できる。 3. 播種性血管内凝固症候群(DIC)の成因と病態について解説できる。 4. 浮腫の成り立ちや病態について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目</p> <p>1) 血液及びリンパ液の循環 (経路) 2) 循環血液量の異常の種類 3) 閉塞性の循環障害の種類 ・事前学修時間: 30分</p> <p>事後学修項目</p> <p>1) 循環障害についてのドリル ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	<p>*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦</p>
2019/10/23 (水) 1時限 09:00～10:30	循環障害の病理組織学	<p>【授業の一般目標】</p> <p>循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 循環障害による主な疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学修項目</p> <p>1) 血液及びリンパ液の循環 (経路) 2) 循環血液量の異常の種類 3) 閉塞性の循環障害の種類 ・事前学修時間: 30分</p> <p>事後学修項目</p> <p>1) 循環障害についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	<p>*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/23 (水) 1時限 09:00~10:30	循環障害の病理組織学	<p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害</p> <p>①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	<p>*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之也 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之明 齋藤 隆里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子</p>
2019/10/23 (水) 2時限 10:40~12:10	循環障害の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 循環障害を理解するために、その分類、病因、病態及び医学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 循環障害による主な疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 血液及びリンパ液の循環 (経路) 2) 循環血液量の異常の種類 3) 閉塞性の循環障害の種類 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 循環障害についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 h 循環障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 エ 循環障害 a 全身の循環障害 b 局所の循環障害</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-4) 循環障害 ①虚血、充血及びうっ血の徴候、原因、転帰及び関連疾患を説明できる。 ②出血の原因、種類及び転帰を説明できる。 ③血栓と塞栓の形成機序、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ④梗塞の種類、形態的特徴、転帰及び関連疾患を説明できる。 ⑤浮腫の原因と転帰を説明できる。 ⑥ショックの成因と種類を説明できる。</p>	<p>*末光 正昌 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之也 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之明 齋藤 隆里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子</p>
2019/10/30 (水) 1時限	修復と再生 (進行性病変)	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、組織・細胞の修復と再生に関する病因・病態及</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *久山 佳代</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
09:00～10:30	修復と再生（進行性病変）	<p>び生物学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する 2. 増生（過形成）と肥大について説明できる。 3. 修復と再生について解説できる。 4. 細胞・組織の再生能力について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 細胞分裂周期 2) 細胞分裂周期における形態学的特徴 3) 幹細胞と多分化能 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 進行性病変についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102 講堂, マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 j 病的増殖</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ウ 修復と再生 a 肥大、過形成（増生） b 化生 c 再生 d 創傷治癒 e 異物処理</p>	*末光 正昌
2019/10/30（水） 2時限 10:40～12:10	修復と再生（進行性病変）	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、組織・細胞の修復と再生に関する病因・病態及び生物学的意義について習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 化生について説明できる。 3. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を解説できる。 4. 創傷治癒に関与する細胞とその過程を解説できる。 5. 異物処理機構について説明できる。 6. 細胞・組織の再生能力について述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 細胞分裂周期 2) 細胞分裂周期における形態学的特徴 3) 幹細胞と多分化能 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 進行性病変についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室, マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102 教室、第2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 j 病的増殖</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ウ 修復と再生 a 肥大、過形成（増生） b 化生 c 再生 d 創傷治癒 e 異物処理</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/10/30 (水) 2時限 10:40~12:10	修復と再生 (進行性病変)	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-3) 修復と再生</p> <p>①修復と再生の機序と幹細胞の役割を説明できる。 ②肥大と過形成を説明できる。 ③化生を説明できる。 ④創傷治癒の過程と関与する細胞を説明できる。 ⑤器質化を説明できる。</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌</p>
2019/11/06 (水) 1時限 09:00~10:30	進行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、その病理学組織学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 進行性病変に含まれる代表的疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 進行性病変の定義と種類について説明できる。 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 進行性病変についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 j 病的増殖</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ウ 修復と再生 a 肥大、過形成 (増生) b 化生 c 再生 d 創傷治癒 e 異物処理</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 光歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 田中 吉夫 玉城 啓介 中澤 十四夫 中島 文彦 中村 孝宏 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子</p>
2019/11/06 (水) 2時限 10:40~12:10	進行性病変の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 進行性病変を理解するために、その病理学組織学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 進行性病変に含まれる代表的疾患の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 進行性病変の定義と種類について説明できる。 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 進行性病変についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 j 病的増殖</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ウ 修復と再生 a 肥大、過形成 (増生) b 化生 c 再生 d 創傷治癒 e 異物処理</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 光歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 田中 吉夫 玉城 啓介 中澤 十四夫 中島 文彦 中村 孝宏 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/06 (水) 2時限 10:40~12:10	進行性病変の病理組織学		*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 康之 齋藤 隆明 白川 誠二 鈴木 彰 田中 慶洋 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニ エイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2019/11/14 (木) 1時限 10:00~10:50	平常試験 1	<p>【授業の一般目標】 病因・病態についての理解の状況を知るために、病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変に関する病理学的知見 ・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p>	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌
2019/11/14 (木) 2時限 11:10~12:00	平常試験 1 (実習)	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴を包括・整理する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 病因論、退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 退行性病変、循環障害及び進行性病変の病理学的知見 ・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略 (LS)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p>	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌
2019/11/20 (水) 1時限 09:00~10:30	炎症	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 炎症の定義と発生機序について解説できる。 3. 5つの臨床症状とその病理組織学的な裏付けについて説明できる。</p>	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/20 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症	<p>4. 炎症の分類, 病理組織学的特徴及び経時的变化について述べる事ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 炎症のケミカルメディエーター 2) 白血球, リンパ球, 形質細胞, マクロファージ, NK 細胞等の炎症性細胞の機能 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 炎症についてのドリル ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 オ 炎症 a 概念 b 原因 c 分類と病態 d 炎症に関与する細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。</p>	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌
2019/11/20 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症	<p>【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 変質性炎の病態と代表的疾患について説明できる。 3. 滲出性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について解説できる。 4. 増殖性炎や肉芽腫性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について説明できる。 5. 膠原病と自己免疫疾患を列挙することができる。 6. 膠原病と自己免疫疾患の成因及び病態について解説できる。 7. アレルギー性炎の成因、種類、形態学的特徴及び代表的疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 炎症のケミカルメディエーター 2) 白血球, リンパ球, 形質細胞, マクロファージ, NK 細胞等の炎症性細胞の機能 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 炎症についてのドリル ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 オ 炎症 a 概念</p>	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/20 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症	b 原因 c 分類と病態 d 炎症に関与する細胞 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌
2019/11/27 (水) 1時限 09:00～10:30	炎症の病理組織学	【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学修する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 代表的な炎症性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 炎症のケミカルメディエーター 2) 白血球, リンパ球, 形質細胞, マクロファージ, NK 細胞等の炎症性細胞の機能 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 炎症についてのドリル・実習帳の問題演習 ・事後学修時間: 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 オ 炎症 a 概念 b 原因 c 分類と病態 d 炎症に関与する細胞 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的变化を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2019/11/27 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症の病理組織学	【授業の一般目標】 炎症を理解するために、その病因、経過、分類、病態及び医学的意義について学修する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 代表的な炎症性疾患の病理組織学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 炎症のケミカルメディエーター 2) 白血球, リンパ球, 形質細胞, マクロファージ, NK 細胞等の炎症性細胞の機能 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 炎症についてのドリル・実習帳の問題演習 ・事後学修時間: 60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室, 顕微鏡-テレビシステムの併用 【学修方略 (LS)】 実習 【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 小泉 康之 齋藤 隆明 茂田 里恵 白川 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/11/27 (水) 2時限 10:40～12:10	炎症の病理組織学	<p>7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 d 炎症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 オ 炎症 a 概念 b 原因 c 分類と病態 d 炎症に関与する細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-5) 炎症 ①炎症の定義と機序を説明できる。 ②炎症に関与する細胞の種類と機能を説明できる。 ③滲出性炎の種類、形態的特徴及び経時的変化を説明できる。 ④肉芽腫性炎の種類、形態的特徴及び経時的変化を説明できる。</p>	坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2019/12/04 (水) 1時限 09:00～10:30	病理検査	<p>【授業の一般目標】 病理学の病院での役割を理解するために、病理検査の基本的事項について学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 病理検査の意義について説明できる。 3. 病理検査の種類と手技の基本について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 病変の分類や病理組織学的特徴 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 病理検査についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 b 組織診</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 10 検査・臨床判断の基本 キ 病理学検査 a 細胞診 b 組織診</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(3) 炎症 ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	山本 浩嗣 *久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌 *山本 泰
2019/12/04 (水) 2時限 10:40～12:10	免疫の病理学	<p>【授業の一般目標】 免疫とその異常を理解するために、免疫反応の機序、アレルギー及び自己免疫疾患の病理学的特徴について学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 細胞性免疫について説明できる。 2. 体液性免疫について説明できる。 3. 自己免疫異常について説明できる。 4. アレルギーの分類、発生機序及び代表的疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 抗原・抗体反応 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 病理検査についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し</p>	豊澤 悟

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/04 (水) 2時限 10:40～12:10	免疫の病理学	102教室 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 f 免疫異常 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 キ 免疫疾患 a 概念 b 免疫不全 c 自己免疫疾患 d アレルギー反応 (過敏症) 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-2) 免疫 ⑤アレルギー性疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。 ⑥免疫不全症・自己免疫疾患の種類、発症機序及び病態を説明できる。	豊澤 悟
2019/12/11 (水) 1時限 09:00～10:30	先天異常・奇形	【授業の一般目標】 先天異常・奇形を理解するために、その成り立ち、分類及び病態について学修する。 【行動目標 (S B O s)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 先天異常の成因について述べることができる。 3. 遺伝性疾患について説明できる。 4. 染色体異常について解説できる。 5. 奇形の定義について述べるができる。 6. 奇形の成因及び病態について解説できる。 7. 顎顔面口腔領域に部分症を現す症候群や系統疾患の成り立ち、分類及び病態 8. 顎顔面口腔領域に部分症を現す症候群や系統疾患の基本的な病理学的特徴について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 先天異常の種類や代表的疾患 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 先天異常・奇形についてのドリル ・事後学修時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 02教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用 【学修方略 (L S)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室 【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 b 先天異常 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ア 内因、外因 【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-1) 病因論と先天異常 ①染色体、遺伝子及び発生の異常を説明できる。 ②環境と疾患の関係を説明できる。	*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌
2019/12/11 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞	【授業の一般目標】 嚢胞を理解するために、その成り立ち、分類及び病態について学修する。 【行動目標 (S B O s)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 嚢胞の定義について述べるができる。 3. 嚢胞の分類について説明できる。 4. 顎骨に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明できる。 5. 軟組織に発生する嚢胞の種類、成り立ち及び病理組織学的特徴について説明	立花 寿人

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/11 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞	<p>できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 嚢胞の定義 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 嚢胞についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 口腔・顎顔面領域の疾患と障害の概念 i 嚢胞（歯源性、非歯源性）</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	立花 寿人
2019/12/18 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び生物学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 腫瘍の発生原因と組織発生（多段階説）を説明できる。 3. 腫瘍の分類について説明できる。 4. 良・悪性腫瘍の肉眼的及び病理組織学的鑑別点について述べることができる。 5. 上皮性及び非上皮性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。 6. 非歯源性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。 7. 異形成、退形成及び分化について説明できる。 8. 腫瘍の異型性と多形性について解説できる。 9. 腫瘍の浸潤、発育及び転移様式について説明できる。 10. 悪性腫瘍の進行度について解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 上皮性組織と非上皮性組織 2) 腫瘍の定義 3) 細胞分裂周期と形態学的特徴 4) 非歯源性腫瘍の種類 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 腫瘍についてのドリル ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 b 疫学 c 病因 d 分類と病態 e 組織学的構造 f 前癌状態、前癌病変 g 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2019/12/18 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍	②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌
2019/12/18 (水) 2時限 10:40～12:10	腫瘍	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び生物学的意義について学ぶ。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 腫瘍の発生原因と組織発生 (多段階説) を説明できる。 3. 腫瘍の分類について説明できる。 4. 良・悪性腫瘍の肉眼的及び病理組織学的鑑別点について述べるができる。 5. 上皮性及び非上皮性腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。 6. 非歯源性腫瘍の病理組織学的特徴について解説できる。 7. 異形成、退形成及び分化について説明できる。 8. 腫瘍の異型性と多形性について解説できる。 9. 腫瘍の浸潤、発育及び転移様式について説明できる。 10. 悪性腫瘍の進行度について解説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 上皮性組織と非上皮性組織 2) 腫瘍の定義 3) 細胞分裂周期と形態学的特徴 4) 非歯源性腫瘍の種類 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 腫瘍についてのドリル ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 102教室、マルチメディアの併用 自主学修用教材「ドリル」を配布およびWebClass利用</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 102教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 b 疫学 c 病因 d 分類と病態 e 組織学的構造 f 前癌状態、前癌病変 g 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌
2020/01/15 (水) 1時限 09:00～10:30	腫瘍の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び医学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 代表的な腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 上皮性組織と非上皮性組織 2) 腫瘍の定義 3) 細胞分裂周期と形態学的特徴 4) 非歯源性腫瘍の種類 ・事前学修時間: 30分 事後学修項目 1) 腫瘍についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間: 60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第2実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 齋藤 康之 茂田 陸明 白川 里恵 鈴木 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2020/01/15 (水) 1時限 09:00~10:30	腫瘍の病理組織学	<p>【学修方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 b 疫学 c 病因 d 分類と病態 e 組織学的構造 f 前癌状態、前癌病変 g 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2020/01/15 (水) 2時限 10:40~12:10	腫瘍の病理組織学	<p>【授業の一般目標】 腫瘍を理解するために、その病因、分類、病態及び医学的意義について学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 以下の学修目標と内容は基礎歯科医学教育及び臨床経験に基づいて設定する。 2. 代表的な腫瘍の病理組織学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目 1) 上皮性組織と非上皮性組織 2) 腫瘍の定義 3) 細胞分裂周期と形態学的特徴 4) 非歯原性腫瘍の種類 ・事前学修時間：30分 事後学修項目 1) 腫瘍についてのドリル・実習帳の演習問題 ・事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング無し 第 2 実習室、顕微鏡-テレビシステムの併用</p> <p>【学修方略 (L S)】 実習</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 1 0 2 教室、第 2 実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 7 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因、病態 ク 腫瘍 a 概念 b 疫学 c 病因 d 分類と病態 e 組織学的構造 f 前癌状態、前癌病変 g 腫瘍と宿主の関係</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 ②腫瘍の病因を説明できる。 ③上皮異形成を説明できる。 ④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 ⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 ⑥腫瘍の増殖、浸潤、再発及び転移を説明できる。</p>	*宇都宮 忠彦 *久山 佳代 *末光 正昌 齋藤 美雪 田中 秀邦 新崎 博文 猪又 俊之 大石 善也 太田 泰人 黒子 光雄 小泉 歩 齋藤 康之 茂田 隆明 白川 里恵 誠二 鈴木 彰 鈴木 慶洋 田中 強 玉城 吉夫 中澤 啓介 中島 十四夫 中村 文彦 西山 孝宏 林 正人 松村 由香 三宅 正純 村守 樹理 メルニエイ マリア 山本 浩嗣 阿部 洋太郎 坂田 一美 紫垣 華子 諸岡 均 二谷 悦子 及川 麻理子 木村 栄作 立花 寿人 長谷川 一弘 樋口 真弘 佐藤 由紀子 中山 光子
2020/01/22 (水)	後半試験	【授業の一般目標】	*久山 佳代

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
1時限 09:00～10:30	後半試験	<p>病因・病態を理解するために、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的特徴について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知見</p> <p>・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p>	<p>*宇都宮 忠彦 *末光 正昌</p>
2020/01/22 (水) 2時限 10:40～12:10	後半試験（実習）	<p>【授業の一般目標】 病因・病態を理解するために、炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を包括・整理する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 炎症、嚢胞、先天異常・奇形及び腫瘍の病理学的知識を整理する。</p> <p>・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略（LS）】 実習</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p>	<p>*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌</p>
2020/01/30 (木) 1時限 10:00～10:50	平常試験 2	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 病因論、退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症、先天異常、嚢胞、病理検査、免疫の病理学および腫瘍の病理学的知見</p> <p>・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p>	<p>*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌</p>
2020/01/30 (木) 2時限 11:10～12:00	平常試験 2 (実習)	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目： 1) 退行性病変、循環障害、進行性病変、炎症および腫瘍の病理組織学的特徴</p> <p>・事前学修時間：180分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 102教室(第2実習室)</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 102教室、第2実習室</p>	<p>*久山 佳代 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌</p>